



なつとくんの

なるほどなつとくニュース

Community Museum「地域の宝・学校の宝」学校を中心とした地域の教育的環境の活用をめざして

※なつとくんの「なるほどなつとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。

故郷との最後の別れ～吉田松陰の句～

出前授業で訪れた岩国市立小瀬小学校のある小瀬に、吉田松陰が詠んだ句碑があります。

「夢路にも かへらぬ関を 打ち越えて 今をかぎりと 渡る小瀬川」

松下村塾でたくさんの塾生を育て、多くの人から慕われていた吉田松陰は、日本のことを見たかった。幕府を批判する態度をとったことで、萩から江戸へ呼び出されました。江戸へ向かう途中、最後の防長の地が小瀬です。

二度と戻ることはできない故郷。どんな気持ちで吉田松陰は小瀬川を渡ったのでしょうか。この句を詠み、萩を離れたのは1859年5月25日。その5か月後の10月27日に、吉田松陰は江戸で処刑され、わずか30年の生涯を閉じたのです。

参考文献『維新の先覚 吉田松陰』瞬報社写真印刷(株) 山口県教育会



とても大きな石碑だよ！

やまぐちけんない

山口県内のいろんなところに吉田松陰の足跡が…



山口博物館
のウェブサイ
トの二次元
コードです。



松陰が生まれ育った時代の日本は、農民が反乱を起こしたり、黒船が近海に現れたりと、世の中にさまざまな異変が起きていました。松陰は各地の情報を得るために、自分の足で九州から東北まで旅に出かけます。歩いた距離は約13,000キロメートル！自分の目で確かめたい、という松陰の思いがよくわかりますね。山口県内にも松陰が足を運んだ跡が残されています。みんなの住んでいる町にあるかも！？

山口県立山口博物館では、吉田松陰にまつわるものや人についても展示しています。山口県を代表する偉人、吉田松陰についてもっとくわしく調べてみよう！

